

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	百貨店（担当者）	・北海道新幹線の開業という外的要因があるため、今後についてはやや良くなる。
		観光名所（従業員）	・3月26日に北海道新幹線が開業することで、終着駅効果が見込める。
(北海道)	やや良くなる	商店街（代表者）	・石油製品価格が下がっているため、商材やサービスにお金が回ることが期待できる。
		商店街（代表者）	・3月は北海道新幹線の開業により、観光客を中心に人の動きが活発化することになる。駅前のホテルはすでに開業日前後が満室状態であり、ホテルのほか、飲食関連にもプラスが見込める。
		スーパー（役員）	・北海道新幹線の開業により、観光関連の景気が良くなり、街全体の景気の押し上げ効果が期待できる。
		コンビニ（店長）	・客のニーズの変化に合わせた素早い対応を行うことで、今後も好調を維持することができる。
		衣料品専門店（店長）	・オーダースーツなどの高単価のアイテムが好調で、1月の売上が前年比106%と堅調に推移していることから、この流れは春の新作が発表される時期も続く。
		乗用車販売店（経営者）	・前年末に発売された新型車の受注が引き続き好調であり、今後の売上増が見込まれる。また、当地区の新車市場において、登録台数が全国以上の伸びを示しており、市場が活性化している状況がうかがえる。
		乗用車販売店（役員）	・前年の年初は消費税増税後の反動が長引き、販売が奮わなかったが、今年は大きな影響を及ぼすような要因がないため、現状の新型車の好調を維持できる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・国内外の個人客、団体客ともに好調であり、今後も2月には春節、3月にはプロ野球の地元開催、4月には大型学会などがあるため、高単価、高稼働での推移が見込める。
		旅行代理店（従業員）	・流水観光及び冬季の体験観光が充実してきたことから、2～3月の外国人観光客の予約が好調との声が多い。外国人観光客の歩留りを懸念する施設も多いが、春節の中国系の観光客に期待するところは大きい。
		旅行代理店（従業員）	・燃油安などで海外旅行の値下げが期待できるため、今後についてはやや良くなる。
		タクシー運転手	・冬のイベントが多数組まれていることで、観光レジャー客の動きが期待できるため、今後についてはやや良くなる。
		美容室（経営者）	・1月はあまり良くなかったが、この状態が続くようには感じられないため、1月と比較すればやや良くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・春の訪れとともに観光客の増加が期待できる。
		住宅販売会社（経営者）	・原油安により灯油やガソリンなどのコストダウンも十分図られてきているため、株式市場が落ち着きを取り戻せば、来春に予定されている消費税増税を控えて、駆け込み需要が少しずつ出てくることになり、今よりも景気はやや良くなる。
		変わらない	変わらない
商店街（代表者）	・4月中旬までは来街者の増加が見込める要素はない。4月下旬になれば、ゴールデンウィーク前ということもあり、近隣住民による買物が若干増加するが、4月の外国人観光客の入込が前年よりも減少する兆候もみられるため、景気は悪いまま推移する。		
商店街（代表者）	・外国人観光客の購入率が一服し始めていることに加えて、国内観光客による売上も少しずつ落ちてきているため、今後も変わらないまま推移する。		
一般小売店〔酒〕（経営者）	・2～3か月先については、とりわけ好材料も見当たらないため、現状のままで推移する。		
百貨店（売場主任）	・定価品もバーゲン品も前年を上回ったものの、バーゲン品の伸びと比べて定価品の伸びが小さく、今後の買い回りへの期待感が薄い。客が購入するまでの下見回数も増えている。		
百貨店（販売促進担当）	・2月に入れば、春節やさっぽろ雪まつりなどのイベントにより、観光客が増えるとみられるが、前年も同時期にかなり売上を伸ばしているため、今年更に上積みすることができるかは未知数である。天候に左右されやすいという地域性から、あまり大きなプラスは期待できない。		

百貨店（販売促進担当）	・ 株価や為替レートの動向によって顧客の消費行動が直接的に影響を受ける地域ではないことに加えて、商圏内の人口増減の変化に乏しい地域でもあるため、競合店の出退店以外はあまり変化を及ぼすような要因がない。また、前年に2回発行したプレミアム付商品券も、生活防衛のための消費にまわされ、プラスアルファの消費につながっていないため、今後も変わらないまま推移する。
スーパー（店長）	・ 来客数が前年を下回って推移するという傾向が変わらないため、今後も変わらないまま推移する。
スーパー（店長）	・ 食品の売上は比較的安定しているものの、衣料品や住まい用品については消費が引き続き低迷している。携帯電話は新規契約者向けの端末代金の実質0円廃止が導入される前の買換え需要で売上が伸びている。
スーパー（企画担当）	・ 来客数は伸びているものの、商品単価の上昇及び買上点数の伸び悩みが続いていることで、客単価は低下傾向が続いている。実質所得が伸び悩んでいるなかで、今後、しばらくは同様の傾向が続く。
スーパー（役員）	・ 原油安によりガソリン価格や暖房費が下がっているものの、食品や生活消耗品にお金がまわっていない。商品単価の上昇により客単価が上昇している面があるが、生活防衛のため、客の買上点数が伸びておらず、来客数も減少している。特に年金未支給月の売上は厳しいため、今後もこの状況は変わらない。
コンビニ（エリア担当）	・ 公共工事の減少や漁業の不振などの減少要因が回復する兆しがないため、今後も変わらないまま推移する。今後については、少ないパイの奪い合いとなるため、業界の淘汰が進む局面となり、力のない小売の衰退が進むなど、経営環境が厳しくなる。
コンビニ（エリア担当）	・ 悪くなる理由もなければ、良くなる当てもないため、今後も変わらない。
衣料品専門店（経営者）	・ 冬の北海道では光熱費や灯油、ガソリン、重油の価格動向により景気が大きく左右される。これらから冬のイベントが各地で行われるが、前年は毎週のように週末の天気が悪く、客の外出があまりみられなかったため、天候が穏やかに推移すれば、前年を上回る売上が期待できる。また、3月に道央圏と当地を結ぶ高速道路が延伸される予定であることもプラス要因として期待できる。
家電量販店（経営者）	・ LED照明や冷蔵庫など、省エネに直結している商材はコンスタントに売れているが、家電製品の主力であるテレビの売行きが良くないため、今後も変わらない。
乗用車販売店（従業員）	・ これまでと状況が何も変わってこないため、今後も変わらないまま推移する。
乗用車販売店（従業員）	・ 北海道という土地柄、例年、秋から段々と販売量が落ち込み、暖かくなる春ごろから、落ち込んだ分を取り戻すという傾向がある。景気による影響が強くてくるのは、春以降の売行きであり、それまでは季節要因による影響が大きい。今後2～3か月先については変わらないまま推移する。
乗用車販売店（従業員）	・ 特に目立った政策や減税などが行われない限り、現状からの変化は見込めない。
自動車備品販売店（店長）	・ 新車販売が好調に推移しているなか、ディーラーでの顧客囲い込み競争が激しくなっており、タイヤやカーナビなどのし好品もディーラーでの同時販売が増えているため、今後については変わらない。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・ 今後、売上を上げていくためには、個々の顧客への地道な相談活動が必要となるため、現在の状況がしばらく続く。
高級レストラン（経営者）	・ 灯油価格やガソリン価格の値下がりにより、家庭内での負担が少なくなるため、景気回復に向けての好材料となるが、将来の消費税増税などの先行き不安があるため、消費者の財布のひもは固いまま推移し、経済的にお金がまわるような状況は見込めない。
高級レストラン（スタッフ）	・ ひとまず最低限の来客数があるため、景気は悪くはないともいえる。しかし、店が努力をしても思ったほど客単価を上げることができないなど、成果が伴わないため、高級店への向かい風を感じる。地元客がもう少し気軽に利用できるようにならなければ、景気が良くなっているとはいいいにくい。
一般レストラン（スタッフ）	・ これからもしばらくは外国人観光客による利用増加が見込まれるため、国内客の減少分を補うことが期待できる。
観光型ホテル（役員）	・ 冬季シーズンとしては例年並みの予約状況となっているため、2～3か月先に景気が大きく上向くことは考えづらい。
旅行代理店（従業員）	・ 先行数値をみても、前年と比べて申込者が大きく増えているわけではないため、今後も変わらない。

	旅行代理店（従業員）	・1月がかなり好調であったため、更なる良化は見込めないが、2～3月まではこの好調な状況を維持できる。
	タクシー運転手	・3月までの雪の降る時期は毎年タクシーの利用が多くなる時期であるが、今年は前年並みか前年をやや下回って推移することになる。また、外国人観光客が増えているが、タクシーの利用はまだ少ないのが現状である。
	タクシー運転手	・今後への不透明感が強い。このような場合は下振れする傾向があるため、今後についてはあまり期待できない。
	タクシー運転手	・前年実績と比べてもほぼ同じような水準であるため、今後も変わらない。雪が多く寒い日が続くと利用客が増えるかもしれないが、天候次第のことであり、景気が良い状況とはいえない。
	通信会社（社員）	・最低賃金も相変わらず低いため、景気回復や所得向上に向けたカンフル剤のようなものがない限り、景気が上向くことは見込めない。
	観光名所（職員）	・外国人観光客の増加により一部の業界は好調だが、あくまでも先行きが不透明なものに頼っているだけである。肝心の一般市民の消費の底上げなどがみられないことから、今後も変わらないまま推移する。
	美容室（経営者）	・今の売上では、これから一気に景気が良くなるとまではなかなか思えない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・株安や政治状況などにより、客の消費マインドが低下することが懸念される。また、外国人観光客も比較的順調に推移しているが、各店からは客単価の低下が報告されており、今後に向けての不安要素がある。
	百貨店（売場主任）	・これからの天候次第の面もあるが、現時点において春物の動きがあまり良くなく、買い控えが生じているため、今後についてはやや悪くなる。ただし、バレンタインやホワイトデーについては前年並みの消費が見込まれるため、堅調な売上が期待できる。また、フレッシュャーズや新入学の学生服などもある程度の販売量が見込まれるため、前年並みを維持できる。
	スーパー（店長）	・原油価格の低下に伴い、ガソリン価格が安くなっているが、日銀のマイナス金利の導入により、先行きへの不透明感が増している。これからの消費税増税だけでなく、将来の輸入品の高騰、食料品などの値上がりなどを懸念している。
	コンビニ（エリア担当）	・ロシア200海里内でのさけます流し網漁が禁止されたことに加えて、たらやほっけなどの漁獲量も悪いため、心理的に悪影響が生じており、沿岸部中心に買い控えが進んでいる。スーパーやディスカウントストアに客が一層流れることが懸念されるため、今後については厳しい状況が続く。中心部では除雪業者の仕事がないため、早朝の客の動きが悪い。
	衣料品専門店（店員）	・単価の高い商材の動きが悪い。今後の消費税増税が決まれば、売上が更に減ることが懸念される。
	家電量販店（店員）	・年末や初売りの売上が良かったことの反動が懸念されるため、今後についてはやや悪くなる。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・石油製品価格が下がり過ぎの傾向にあることで、マージンが圧縮されてきているため、今後についてはやや悪くなる。
	その他専門店〔造花〕（店長）	・今後の消費税増税を前に、消費者の購買意欲が低下しているため、今後についてはやや悪くなる。
	タクシー運転手	・問い合わせの件数が少しずつ減ってきている。予約状況も前年と比べるとばらばらであり、今後についてはオーダーがやや減少することになる。
	タクシー運転手	・地域の人口減少が進んでいるなか、天候が良いことで全体的な需要が減っている。社員の減少も相まって、今後の景気は悪くなる見通しである。
	パチンコ店（役員）	・4月からの電力自由化により、一定の経済効果が出てくることを期待しているが、観光関連の業種に関しては、バス会社の事故により規制が強化されることが懸念されるため、冬季のイベントが続くこの時期にとって痛手となる。
	住宅販売会社（役員）	・来年春に予定されている消費税増税を前に、分譲マンションの駆け込み需要が生じることを期待しているが、増税までまだ時間的な余裕があるため、最近の経済情勢の悪化などから、購入を先送りすることが懸念される。
		悪くなる
企業	良くなる	-

動向 関連 (北海道)	やや良くなる	建設業（経営者）	・今後については、ゼロ国債や補正予算による公共工事の発注が行われることで、土木を中心に受注量が増えてくることになる。工事の本格的着工は4月末ごろになるとみられるが、マインド面で好転することが期待できる。また、建築、住宅についても融雪後の着工をにらみ引き合いが増えてくる。
		建設業（従業員）	・今後については、公共工事の発注が本格化することになる。また、北海道新幹線の開業効果や外国人観光客の安定的増加により、旅館やホテルなどでの施設改修工事が増加していることもあり、今後についてはやや良くなる。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・T P P対策に伴う、農業土木関連の発注が期待できる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・3月期決算の会社の決算時期を迎えるなかで、政府の施策効果が表れてくることを期待している。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・主な客先である鉄骨業の加工量が3月ごろから活況になる見込みであるため、これから消耗資材を中心に販売量の回復が見込める。
変わらない		食料品製造業（従業員）	・今のところ、現状より悪くなることはないとみている。
		建設業（従業員）	・民間建築工事の投資意欲は引き続き堅調に推移しているが、土木公共工事は農業関連の発注増加が見込まれるものの、全体としては現状程度での推移が見込まれるため、変わらないまま推移する。
		輸送業（営業担当）	・4月の電力自由化に伴い、当社では社屋、倉庫、荷役機器を新電力に切り替える予定であるため、コストセーブにつながる。
		輸送業（支店長）	・雪解けシーズンになり物流量の増加が期待できるが、主要荷主からはその頃はまだ物流量が増えないとの説明があったため、厳しい状況のまま変わらない。
		金融業（従業員）	・年明け以降、株式相場や為替、原油市場の値動きが荒く、この影響を受けて、個人消費や設備投資などに当面の様子見姿勢が強まることが見込まれる。
		司法書士	・北海道特有の問題ではあるが、冬季においては経済が停滞する傾向がある。今後については、消費税増税による駆け込み需要を期待する声もあるが、現時点においてはあまり変化がないまま推移するとみられる。
		コピーサービス業（従業員） その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・取引先の慎重な状況は今後もしばらく続く。 ・閑散期を迎えることに加えて、新年度の公共工事に対する見込が悲観的なこともあり、今後も変わらないまま推移する。民需がおう盛な都市部との景況感の違いは増すばかりである。
やや悪くなる		家具製造業（経営者）	・年初からの株価の乱高下に象徴される先行き不安が払しょくされない限り、景気がやや悪くなる懸念がある。
		通信業（営業担当）	・世界的な経済状況への先行き不安が増したことで、当社も含めて道内企業の来期以降の投資や業績見通しに対する慎重な見方がこれまで以上に強くなってきている。
		司法書士	・重要閣僚の辞任など、マイナス要因が多く、先行きについては楽観できない状況にある。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・年度末から年度当初にかけて、現在、作業中の仕事が収束することになるが、今後、大きな新規案件が突然出てくることはないため、やや悪くなる。
雇用 関連 (北海道)	良くなる やや良くなる	-	-
		職業安定所（職員）	・新規求人数、有効求人数ともに前年を上回っているほか、有効求人倍率が1.21倍となり、7か月連続で1.00倍超えの高水準となっていることから、今後についてはやや良くなる。
		人材派遣会社（社員）	・人材不足の状況を踏まえて、企業が積極的に採用活動を示しているが、道内企業の業績は横ばい又はまだら模様であるため、採用に伴う人員の増加をうまく業績拡大につなげられるか、人件費の増加を現在の業績で吸収できるか、今しばらく業況をみなければならぬ。
変わらない		求人情報誌製作会社（編集者）	・事業規模の大小を問わず、同業種や同職種でも求人需要が大きく異なるなど、売上や利益が全体的にまだら模様になってきている。

	求人情報誌製作会社 (編集者)	・外国人観光客への対応で求人件数を伸ばしていたドラッグストアや土産物店などの小売店の求人件数が減少している。これが直ちに景気の減速を意味するものとはならないが、中国経済の動向によってはこの傾向がしばらく続くことが懸念される。
	求人情報誌製作会社 (編集者)	・景気の先行きが不透明なため、企業が人材の採用に慎重にならざるを得ない状況にある。
	新聞社 [求人広告] (担当者)	・このところ、募集広告売上が前年比で5～10%減少しており、この傾向は当面続くとみられる。
	職業安定所 (職員)	・3月に北海道新幹線が開業するが、人口が減少しているため、効果が相殺されることが懸念される。
	職業安定所 (職員)	・求職者が減少するなか、職業別の求人状況を見ると、管理的職業と農林漁業以外の職業で増加傾向にあり、特に飲食物の調理や接客、給仕、介護サービスなどのサービスの職業や販売の職業での増加幅が大きく、今後もこの傾向が続くとみられる。
	職業安定所 (職員)	・10～12月の累計で新規求人数が前年から19.7%増加し、有効求人数も前年から5.1%増加しているため、今後も変わらないまま推移する。
やや悪くなる	求人情報誌製作会社 (編集者)	・当地の景況感があまり良くないなか、求人数が減少していることから、今後についてはやや悪くなる。
悪くなる	-	-